



きって 切手のぎざぎざはなぜついているの

「目打ち」という、きってき切手を切りはなすためについている穴

きって切手のまわりには、ぎざぎざがついていますね。あのぎざぎざを、「目打ち」といいます。目打ちは、きって切手を切りはなすのに、はさみを使わなくてもいいように、小さな穴が並んでいるのです。

きって目打ちの穴は、きかい機械を使って開けます。目打ちの穴の開け方には、三つの方法があります。一つめは「単線目打ち」といい、切手の縦と横の穴を別々に開けます。二つめが「くし型目打ち」といい、穴を開ける針をくしの歯のように並べて、いちどにきって切手の三方に穴を開ける方法です。三つめが「全型目打ち」といい、きって切手シート1枚分の穴あけを、いちどにやってしまう方法です。

きって切手が使われるようになった初期のころには、目打ちはありませんでした。1848年アイルランドのアーチャーというひときかい機械を発明してから、きって切手に目打ちがつけられるようになったのです。

さいしょきって 日本最初の切手

めいじじだい明治時代になってあたらしい郵便制度が取り入れられ、1871(明治4)年に、日本で最初のきって切手が発行されました。このきって切手には、りゅうの絵がかいてあったので、りゅう切手とよばれました。このきって切手には、めうち目打ちはありませんでした。(監修・青木 国夫)

